

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	風の子キッズ			
○保護者評価実施期間	2025年12月16日 ~ 2026年1月16日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	2026年1月6日 ~ 2026年1月23日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月5日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との連携がしっかりとれている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子通所である</li> <li>・個別面談を定期的におこなっている。</li> <li>・LINE、メール、電話でも連絡や、相談に応じている。</li> <li>・運営法人である風の子会は、障害のあるお子さんを育てている親たちが中心となって立ち上げた組織であるので、親の気持ちに寄り添い、親の支援も行うことに力を入れている。</li> </ul>	今後は、家族支援の中でも特に「きょうだい児」へのサポートを強化していくことが必要だと思われる。そのためにも、ご家族から相談を受けた場合の体制整備、職員一人一人のスキルの向上など今以上に充実させていくことが必要だと思われる。
2	こどもたちが遊べる環境がしっかりとある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「遊びを通して発達を支援する」を方針にしている。</li> <li>・指導員も一緒に遊ぶ。共に遊ぶ中で楽しみを共有し、コミュニケーションの土台となる関係性を築くことを大事にしている。</li> <li>・おもちゃ等遊びに使うものを厳選し、取りそろえている。</li> <li>・遊びなどのリクエストがあったときに、それに応えようと職員全員で努力する。</li> </ul>	こども一人一人ときちんと関係性を深めていくように、職員のスキルの向上、全職員での共有と話し合いを深めていくことを引き続きおこなっていくことが大事と考える。
3	経験豊富な職員が多いため、遊びや課題のバリエーションが多く、また、応じられる相談の幅も広い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心理職、保育・教育現場での勤務経験、障害のあるお子さんの子育て等、知識や経験豊富な職員で構成されている。</li> <li>・障害のあるこどもの子育ての経験に関しては、風の子会の卒園生の親が、指導職員として勤務している。</li> </ul>	職員一人一人の経験を、お互いに伝え合うこと、研修という形で共有していくことを通して、より良い支援へと繋げていくことが必要となる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設のバリアフリーに関して不十分な点がある。	入口の段差、トイレの作りなどのバリアフリー化、乳幼児専用の設備について、検討している。	トイレは踏み台を作ったり、補助便座を使用したりすることでカバーしている。 日頃から子どもの視線で環境を考えること、気付いたことを職員間で共有することを、今後もしっかりと行っていきたい。改善に向けての具体的な動きも早急に行えるように全員で取り組む姿勢を持ち、取り組んでいきたい。
2	保護者間の交流やきょうだい児への支援に工夫が必要である。	保護者交流については、通常の活動の中での保護者同士の関わりや保護者会の開催などで出来ていると感じていたところもあったが、さらに充実していく方向で検討していく。 きょうだい児への支援については、保護者アンケートで出ている要望を踏まえ、充実していく必要がある。	保護者会の際に保護者同士の意見交換の場を設けるなど、会の持ち方を工夫する必要があると思われる。 当事業所は障害のある子どもを育てた経験のある職員もあり、また同法人の放課後等デイサービスの保護者に自身の経験などを話してもらったり相談にのってもらうことも可能なので、そのような機会も提供していきたいと考えている。 きょうだい児への支援については、夏休みのプール活動など、現在も一緒に参加して活動する機会があるが、今後も交流の機会をつくっていきたい。
3	親子通所のため、保護者の方の仕事の都合、ご家族の都合などによっても通園への影響が出てしまう。	自宅や所属園での生活をさらに充実させていくことに繋げるため、また、コミュニケーションの支援としても、「親子で楽しみを共有しそれを持ち帰ってもらうこと」は大切であると思っている。方針の「親子通所」を変えることはないが、より柔軟な形での家族支援、発達支援を検討していく必要もあると思われる。	お休みが続いている子どもには、連絡を取ったり、家庭でできる宿題や家庭で楽しんでもらえるように動画等を送るなどの支援をしている。そのための体制を整備することや、家庭や子ども一人一人のニーズや課題を受け止め、職員間で話し合う中で共有していくことも、今以上に行う必要があると思う。